



### 一期二会

もう5、6年も前の年の夏、私は広島県瀬野にある両親の家に滞在していた。ある日の午前、瀬野駅から広島駅経由で芸備線の甲田へ向かった。持っていたJRゾーン切符が甲田まで有効だったからこれを有効利用して行ったことのない町を歩いてみようと思ったのだ。狩留家という駅で乗り継ぎのため小一時間を過ごす。田園風景を楽しみながら小川沿いを歩いた。ここで数時間遊歩して帰ってもよかったが、予定通り旅を進めた。

そこから乗った三次行きのディーゼル車の中で少し離れた通路側の席にこちらを向いて座った美しき初老の女性に目を惹かれた。隣に座ったよく似た娘らしき人より気品がある。おそらく先祖はどこかの城の主であったのではなかろうか、時代が時代なら姫と呼ばれる人だったろうな、などと想像した。彼女はおおかた目をつむっていたので、その美しい容貌に心ゆくまで見とれていることができた。彼女らも甲田で下車した。駅の待合室で帰りの時刻を調べていると、おくれで階段を下りてくるかの婦人と目があつた。

私は駅前の簡易地図で行くべきところを探すと立派な寺があることがわかりここに向かうこととした。しかし後でわかったことだが私は地図の見方を誤り、線路の北側と南側を反対にとらえていた。こうして私はあらぬところを歩いてその寺を探した。おまけにここには民家に古風な形の屋根を持つのが多く、遠くからはあれが探す寺に違いないと思い近づいてみるうちに、まとはずれだったことがわかるということが二度あつた。やがてあきらめて低い山にでも入って弁当を食べようと線路の反対側に行った。しばらく行くと神社が見えてきて、ここがいいと思っているうちに道しるべに「高林坊 0.2km」とあつたのでそこまで行くことにした。

着くと、来たことが報われたと思うほどの立派な寺であつた。鐘は重要文化財だ。あとでここが駅前の地図にあつた自分がもともと目指していた寺でもあるとわかつた。一巡りする前に寺の裏の急坂を上ったところで、コンビニで買った巻きずしの弁当を食べた。低い柵があり二本の金属線が張られていた。人なら容易に跨げるのでおそらく山から害獣が侵入してくるのを電流で防ぐものだったろう。

寺を一巡りし帰るべく寺門を出ると前は車道であるが左に境内に沿ってゆく細道があり私はそちらに歩いた。その道は途中民家の庭に通じる枝道を有しており、真っ直ぐ行っていると寺の副門に至つた。車道に降りる坂道を下っていると、坂に連なつた別の民家より女性が三人ばかり木立の向こうに見え隠れして坂道に向かつていた。若い美しい女性が目に入ったので視線をそちらに向けていると、坂道に現れた先頭の女性はかの美しき婦人であつた。私は思わず一礼した。すれ違ってしばらくして振り返って見ると彼女らはおしゃべりしながら寺の副門から境内に入つて

ゆくところだった。

迷い迷いて行き当てし古寺にて みめ美しき人に一期二会

おそらく寺の住職の娘であったのだろうと思った。この寺は石垣もしっかりしており、後ろは急な山で、古（いにしえ）には僧兵を養い城の機能も持っていたろうと想像できた。私の、古なら城主の娘という空想もまるっきし外れてもいないかもしれないなと思った。

近くの春日神社に入り、ボレロをリコーダーで奉納演奏。彼女の耳にかすかでもこの笛の音が届くことを願った。

その後、急ぎ足で五龍城跡地へ上る。

写真(photos):

[amazon.com/author/nagamitz-kazuhiro](https://amazon.com/author/nagamitz-kazuhiro)